

サブサハラアフリカ諸国において 国際移民が経済成長に与える影響

東京外国語大学
外国語学部英語専攻
宇野ゼミ 深谷春奈

内容

- 導入
 - 研究の背景
 - 国際移民
 - 国際移民と開発
 - SSA地域の国際移住
- SSA地域の成長回帰分析と先行研究
- 分析モデル
- データ
- 分析結果・考察
- 結論

導入① 研究の背景

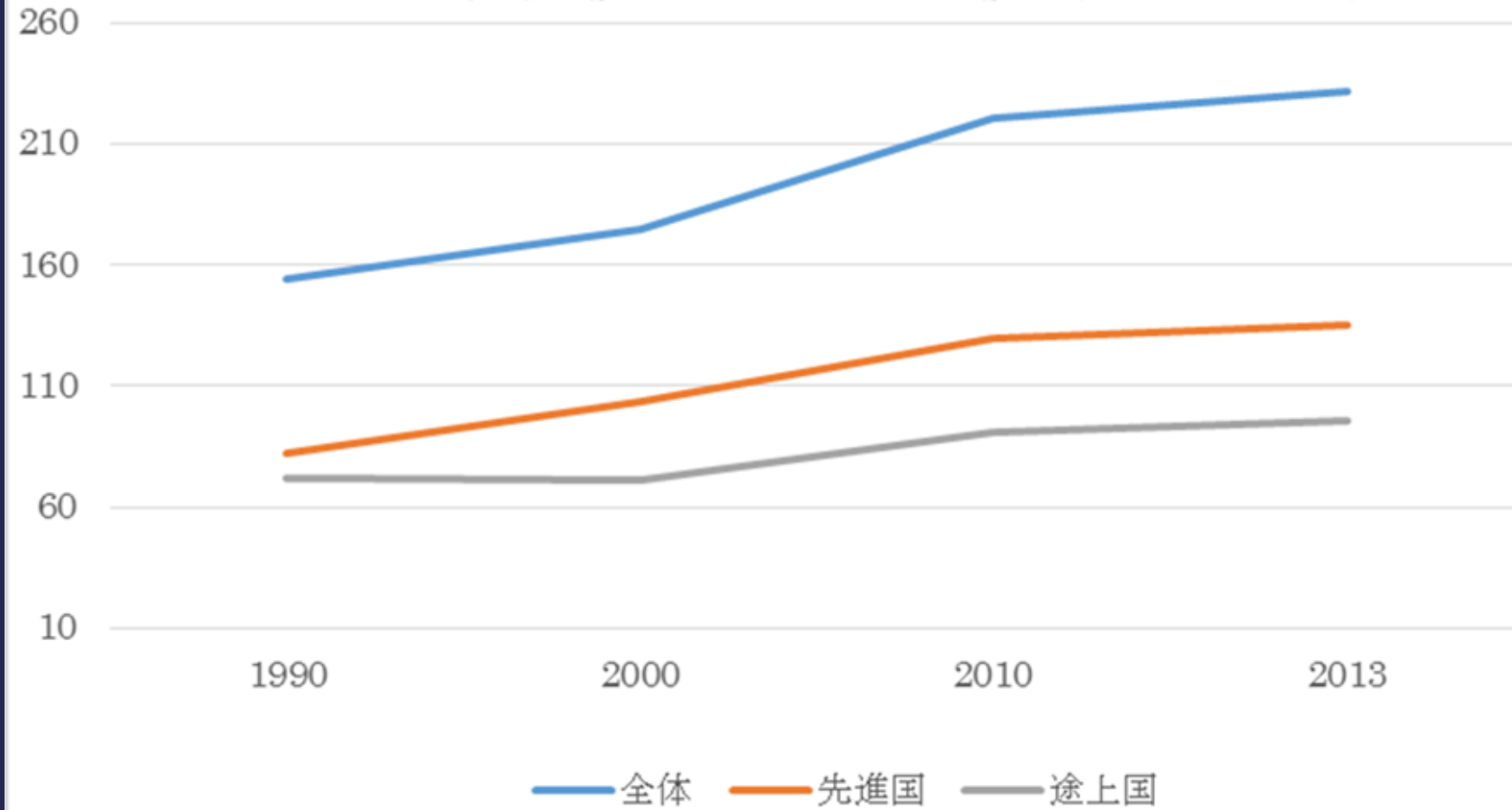
- グローバリゼーションの進展
 - 人、モノ、カネの国際的な移動の多様化
- 移住形態の変化
 - 「南」から「北」への移住から「南」から「南」への移住の増加
 - 特にサブサハラアフリカ（SSA）地域では域内の途上国から域内の先進国への移住が主流
- レミタンス研究は多いが、受入国への影響を検証するものは少ない。

→移民受入国にとっても移民の存在はメリットになっているのではないか？

導入② 国際移民

- 国際移民とは...
 - 「国外出生者あるいは外国籍保有者」(UN DESA, 2013)
 - 「距離・構成・原因に関わらず国際的に移動する人々、または集団」(IOMホームページ)
- 本論文ではUN DESAのデータを使用するため、前者の定義に従う。
- UN DESAの国際移民ストックとは...
 - ある国やある地域において存在する国ごとの国勢調査、住民票などから国際移民を集計した数。難民を含む。(UNPD)

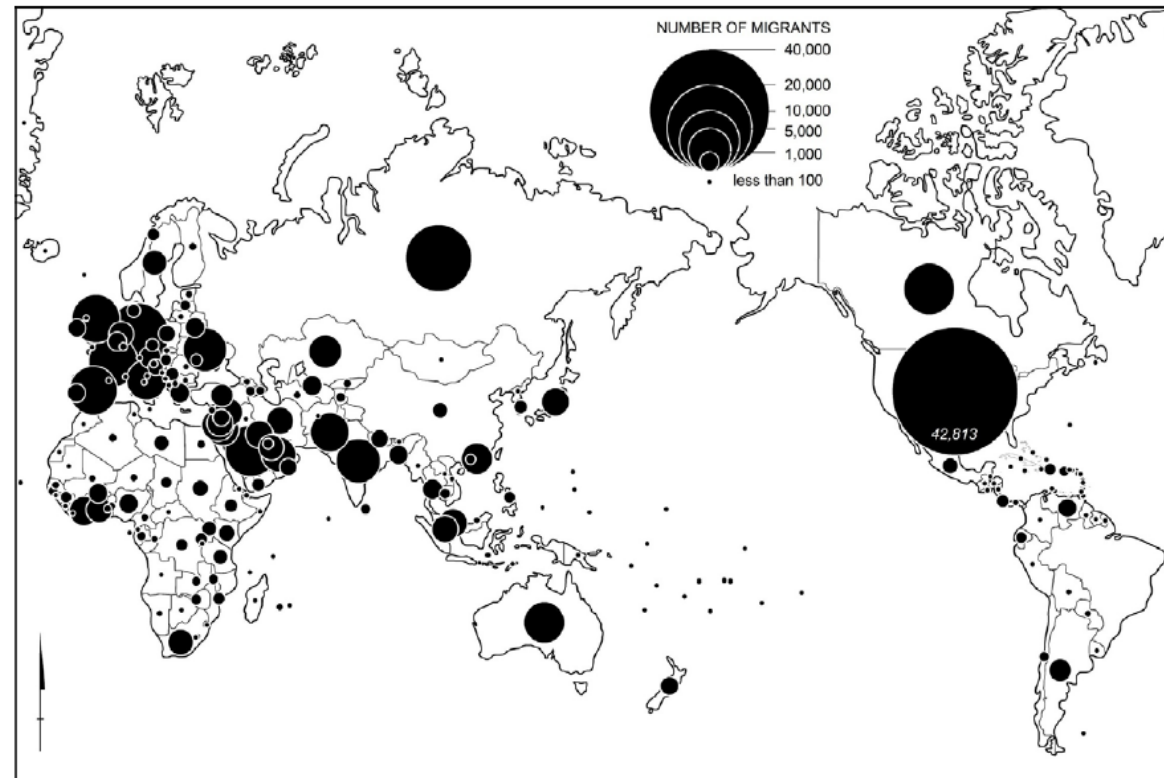
国際移民ストック推移 (1990-2013)



地域別国際移民数推移 (1990-2013)

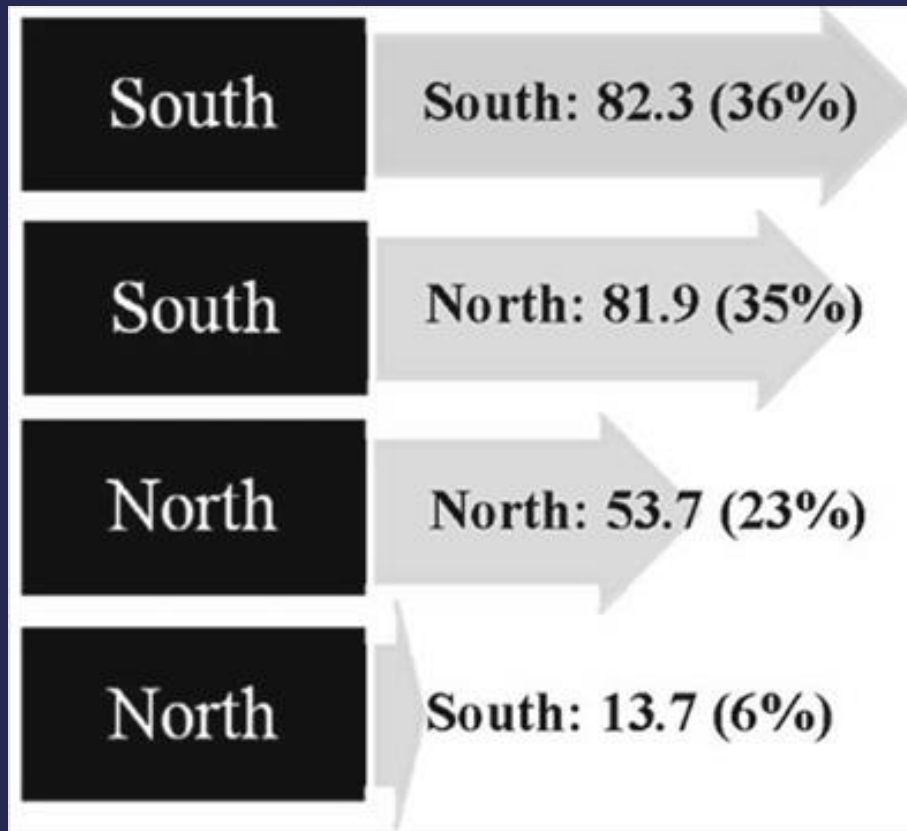
出典：UN DESAデータベース

World international migrant stock in 2010 (thousands)



Source: United Nations 2009

2010年の国際移民ストック分布
出典：(Hugo, 2013)



- 「南」から「南」への移住も従来の移住と同様に多い。
- 移民ストックの約60%が先進国に移住しているものの、途上国への移民も約40%にのぼる。
- 2013年には途上国出身の移民約8230万人が途上国に移り住んでいる。(UN DESA, 2013)この数は先進国に移住する人口をわずかに上回っている。

1990年から2013年の先進国・途上国間での移民ストック（百万）と割合
 出典：(Hugo, 2013)

導入③ 国際移民と開発

- 移民の海外送金は、出身国の経済発展に大きなプラスのインパクトをもたらす。
- さらに移民は、出身国に対し、出身国の開発を支持する「社会的送金（social-remittances）」と呼ばれる技術や考え方を移転する。
- 「頭脳流出」は「頭脳循環」にとって代わり、移民送出国と受入国、両者に利益をもたらす。
- 一時的（あるいは循環型）労働移民は、開発を促進することができる。
- 移動するディアスポラは、資源やアイデアの移転を通して、開発の強力な勢力になる。
- 経済発展は人口流出を減少させる。

(Castles & Miller, 2010)

→移民は送出国のみならず受入国の開発に対してもプラスの影響を与えている可能性。

導入④ SSA地域の国際移民

- アフリカ大陸全体の移民数は増加傾向。
 - SSAは常にプラスを維持。

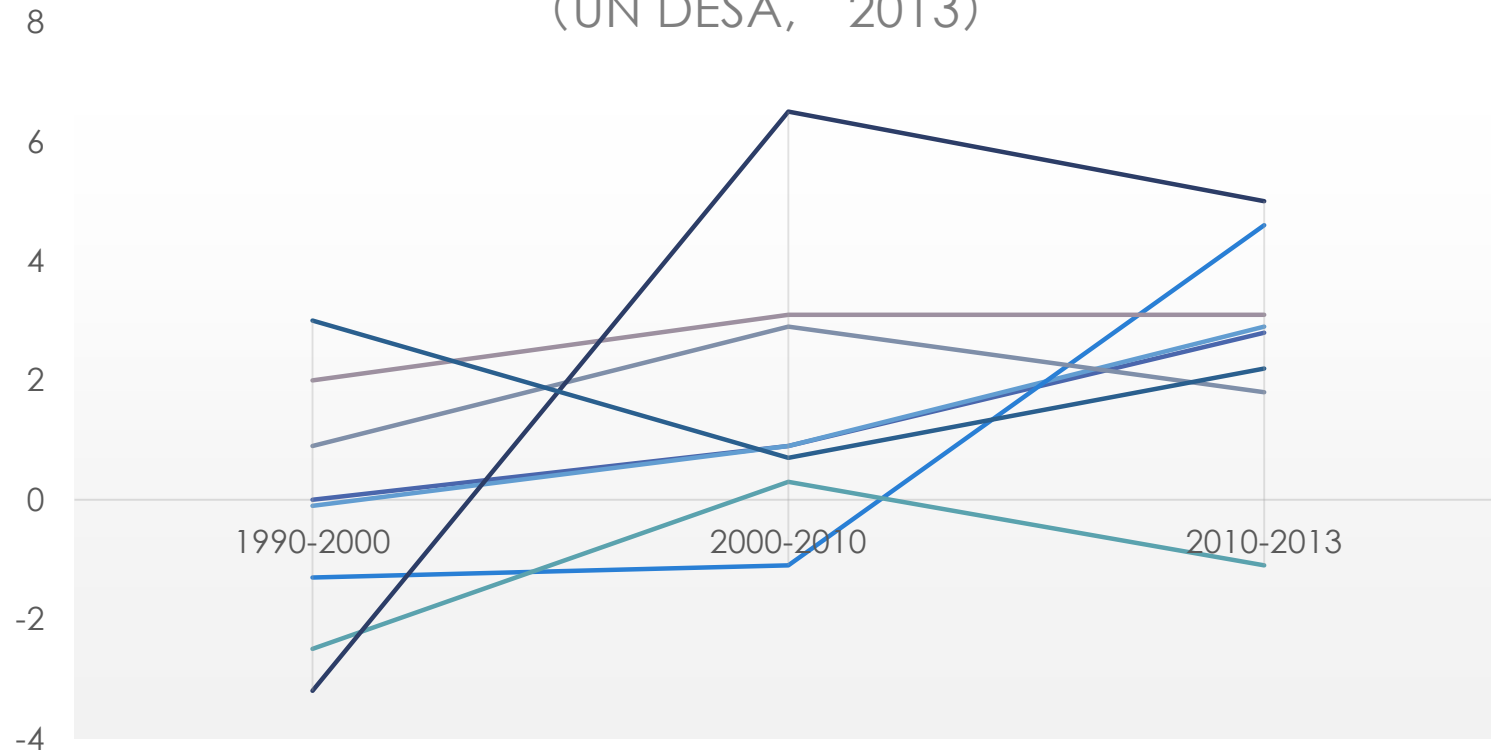
- 移民の大部分がSSA地域に存在。

→SSA諸国における移民の影響は非常に大きい。

2013年（6月時点）のアフリカ地域における国際移民ストック数上位十か国
出典：UN DESA

	Country	2013
1	Côte d'Ivoire	2 446 171
2	South Africa	2 399 238
3	Nigeria	1 233 592
4	Kenya	955 452
5	Libya	755 974
6	Ethiopia	718 241
7	Burkina Faso	696 983
8	South Sudan	629 577
9	Uganda	531 401
10	Rwanda	452 406

Annual rate of change of the migrant stock (UN DESA, 2013)



- AFRICA
- Sub-Saharan Africa
- Eastern Africa
- Middle Africa
- Northern Africa
- Western Sahara
- Southern Africa
- Western Africa

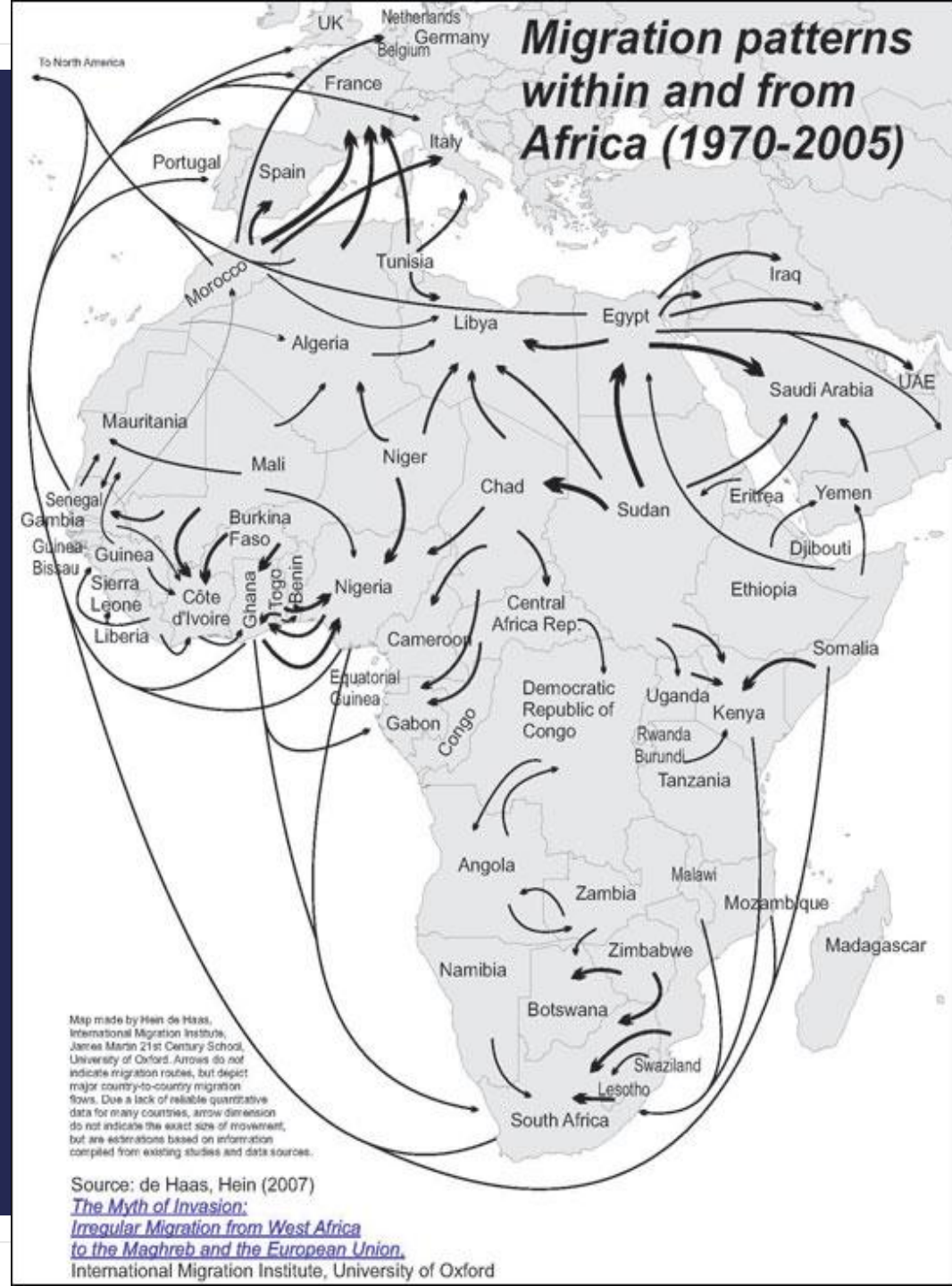
アフリカ地域における移民ストック年間増加率
出典：UN DESAデータベース

導入⑤ SSAの移民動向

- 域外への移住も存在するが、域内での移動が主流
- 近接する国同士での移動が多い
- 移民の循環が起こっている

移民が送出国と受入国の両者に対する「社会的送金」によって、両者の開発に大いに寄与している可能性。

右：アフリカ内外の移民の流れ
出典：(Castles & Miller, 2010)



導入⑥ SSA成長要因の先行研究

- SSA地域の低成長を説明するための回帰分析は、特に (Barro & Lee, 1993) (Easterly & Levine, 1997) (Sachs & Warner, 1997) (Collier & Gunning, 1999)の研究により網羅的に説明。
- スタンダードな説明変数
 - 投資率、教育、人口成長率、国際価格と国内価格の差、政治的安定性、地域ダミーなどが使用されてきた。また、経済の開放度・貿易政策、金融市場の発展性、マクロ経済管理、政府の質、法的・社会的インフラなど。

これまでの研究では人的資本を示す指標として移民に関する指標はなかった。

→移民と開発の関係に注目しながら、移民の指標を含めた新しい重回帰モデルを作り、SSA地域における移民と同地域の経済成長の関係を探っていく。

分析モデル

$GDP\ per\ capita_{it} =$

$$\alpha + \beta^1 Trade_{it} + \beta^2 FDI_{i(t-1)} + \beta^3 Expenditure_{i(t-1)} + \beta^4 Capital_{i(t-1)} + \beta^5 Inflation_{it} + \beta^6 Employment_{it} + \beta^7 Immigrant_{it} + \varepsilon_{it}$$

指標カテゴリー	変数名	WDIのデータ名	期待される結果
被説明変数	GDP per capita	GDP per capita growth (annual %)	
海外志向	Trade	Trade (% of GDP)	+
海外志向	FDI	Foreign direct investment, net inflows (% of GDP)	+
政府	Expenditure	General government final consumption expenditure (annual % growth)	+
企業	Capital	Gross capital formation (% of GDP)	+
マクロ経済	Inflation	Inflation, GDP deflator (annual %)	-
人的資本	Employment	Employment to population ratio, 15+, total (%)	+
人的資本	Immigrant	International migrant stock, total	+

データ

- 分析① プーリングデータ

- エリトリア、ギニアビサウ、サントメ・プリンシペ、セーシェル、ソマリア、ナイジェリア、南スーダン、リベリアを除くSSA諸国（計40ヶ国）
- 1990～2012年（時差のついているものは1989～2011年）

- 分析② 国別データ

- 上記SSA諸国40ヶ国
- 1990～2012年（時差のついているものは1989～2011年）

- データはすべてWDIを使用。

表5-1 SSA40ヶ国プーリングデータ分析結果

分析結果①

回帰統計

重相関 R	0.508542942
重決定 R2	0.258615924
補正 R2	0.252925476
標準誤差	5.323099847
観測数	920

分散分析表

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	7	9014.384357	1287.769194	45.4473753	2.55963E-55
残差	912	25841.87749	28.33539198		
合計	919	34856.26185			

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	-3.643548654	1.271320008	-2.865957139	0.004253107
Trade*	0.007366736	0.006040587	1.219539669	0.222954725
FDI***	0.209503566	0.028032219	7.473670333	1.82706E-13
Expenditure***	-0.075634669	0.027963946	-2.704720847	0.006963578
Capital***	0.148237205	0.020587234	7.200443022	1.25475E-12
Inflation**	-0.000320393	0.000192969	-1.660331007	0.097191628
Employment**	0.027579055	0.01448556	1.903899826	0.057237738
Immigrant	2.84776E-07	3.90088E-07	0.73003065	0.46555892

*** $|t| > 2$ 、 ** $1.5 \leq |t| < 2$ 、 * $1 \leq |t| < 1.5$

分析結果②

表5-2 国別分析結果表

Immigrantが有意であった国々の分析結果(t値)

Country name	R2	Adjusted R2	Trade	FDI	Expenditure	Capital	Inflation	Employment	Immigrant
Angola	0.55	0.34	0.129150314 (-1.48)*	-0.312722824 (-1.46)*	-1.896643826 (-2.98)***	0.260892098 (1.12)*	0.001023828 (0.61)	8.246177884 (1.35)*	-0.000524869 (-1.28)*
Burkina Faso	0.39	0.11	0.158961195 (0.92)	-1.216892583 (-0.67)	0.80414131 (2.39)***	-0.139234973 (-0.54)	-0.292739983 (-1.83)**	4.019033137 (1.34)*	6.62116E-06 (1.58)**
Burundi	0.64	0.48	-0.082680341 (-0.58)	-0.706047837 (-0.31)	-0.270796335 (-1.53)**	0.435430831 (1.78)**	-0.063048188 (-0.81)	1.439952214 (1.12)*	-5.80308E-05 (-1.92)**
Cameroon	0.82	0.73	0.008636672 (0.11)*	0.343929214 (1.00)*	-0.96590222 (-3.30)***	-0.108327548 (-0.50)	0.030944546 (0.28)	-0.585970282 (-0.96)	-0.000140189 (-2.67)***
Chad	0.53	0.31	-0.038252165 (-0.32)	-0.135119225 (-0.32)	-0.620619992 (-0.83)	0.501049167 (1.23)*	0.068256359 (0.40)	24.47579675 (1.57)**	3.97575E-05 (1.06)*
Congo, Dem. Rep.	0.86	0.80	0.092853888 (4.06)***	-0.053218729 (-0.37)	-0.471400299 (-2.39)***	0.076667775 (0.63)	0.000163668 (1.13)*	9.237167576 (3.11)***	-3.9578E-06 (-2.18)***
Guinea	0.71	0.58	0.127637381 (3.40)***	-0.001196256 (-0.01)	0.262608284 (1.03)*	-0.120761495 (-1.40)*	-0.070697056 (-1.82)**	-4.791485799 (-2.61)***	4.46821E-06 (1.64)**
Madagascar	0.52	0.29	0.216812241 (2.67)***	0.624695004 (0.85)	-0.546657238 (-0.49)	-0.720380492 (-2.21)***	-0.143582592 (-1.44)**	0.890593684 (0.55)	-0.00070573 (-1.06)*
Malawi	0.69	0.54	-0.28832626 (-3.13)***	0.499182735 (0.76)	0.564474837 (1.79)**	0.654878779 (2.50)***	-0.05630594 (-0.77)	-0.940875463 (-1.18)*	-1.01894E-05 (-1.68)**
Mali	0.45	0.19	0.260093422 (2.43)***	0.23195039 (0.58)	0.034363439 (0.11)	0.031235021 (0.10)	-0.248596301 (-1.98)**	0.030562551 (0.16)	0.000528131 (1.55)**
Mozambique	0.50	0.27	-0.150627478 (-1.68)**	-0.466177 (-1.56)**	0.483291453 (0.91)	0.298116517 (1.45)*	-0.014694406 (-0.24)	1.090198183 (0.54)	3.3209E-05 (1.80)**
Rwanda	0.82	0.74	-1.199005013 (-5.88)***	4.075598776 (1.02)*	-0.106024099 (-0.10)	-1.471679579 (-1.17)*	0.363308525 (2.11)**	7.058287018 (1.74)**	0.000153047 (3.02)***
Tanzania	0.83	0.75	0.081938922 (1.75)**	-0.090715693 (-0.39)	-0.254992691 (-1.59)**	-0.235285345 (-1.33)*	-0.165496355 (-2.86)***	0.699214489 (1.62)**	-4.36787E-06 (-1.37)*
Togo	0.65	0.49	0.056188379 (0.39)	0.178214193 (0.21)	-0.160960044 (-0.22)	-0.145794043 (-0.42)	0.106016948 (0.68)	36.74797413 (3.53)***	-0.008058079 (-3.55)***
Uganda	0.47	0.22	0.069728469 (0.41)	0.117445485 (0.24)	0.300007869 (0.84)	-0.727288838 (-2.61)***	-0.019032355 (-0.34)	-0.388633638 (-0.47)	3.53347E-05 (1.16)*
Zambia	0.65	0.48	-0.127640616 (-0.97)	-0.764918517 (-2.66)***	-0.359685946 (-1.94)**	0.931440058 (3.65)***	0.076313774 (2.09)***	1.619604322 (2.64)***	-6.0654E-05 (-2.15)***

*** |t| > 2, ** 1.5 ≤ |t| < 2, * 1 ≤ |t| < 1.5

考察②

- 殆どの国々で、Expenditureが負であるとImmigrantも負。
 - 政府支出が経済に及ぼす影響と国際移民ストックが受入国経済に及ぼす影響との間には何らかの関連性。
 - 公共政策に問題があるような国家のガバナンスはそうでない国々に比べて低いということが想像可能。
 - 国際移民ストックが経済にプラスの働きとなるかマイナスの働きとなるかにはその受入国政府の移民管理の方法や、経済政策等に依ると考える。
- 90年代の紛争経験国ではImmigrantが正に有意である傾向。
 - ルワンダ、モザンビークなどの国々では国際移民ストックの影響はプラスであるという結果。
 - 一度国外に移住した難民や移民たちの帰還が進むにつれて、彼らとともに国内に流入する移民が増えるためである可能性。
 - そうした移民は、戦後の復興期に重要な労働力として受入国の産業に従事し、経済成長を促進しているのではないだろうか。

結論①

- SSA諸国のうちの40ヶ国の1990年から2012年までのプーリングデータを用いた分析からは、予想に反して政府支出が一人当たりGDPの成長率に負の影響を与えていた。この結果から、公共投資がうまく国民の生活水準の向上に役立っていないということが明らかになった。
- 公共事業などに代表される公共投資がSSA諸国において効率的に機能していないのは、政府のガバナンスの欠如のためか。

結論②

- 政府の管理能力が低い場合には移民の受入によって安価な労働力を獲得しても、受入国経済が発展しない。
- 政府や当局の移民管理の脆弱さのために、移民受入国では移民の流入過多状態に陥り、移民が国民の雇用を妨げ国民の所得水準の低下を引き起こしている可能性。
- 反対に、移民送出国では国内の労働力や頭脳不足を補うために移民の存在が重要となっていることが示唆された。
- 国外へ流出した国民の帰還が進んでいる国々では、移民がその国の経済発展に寄与する傾向。帰還民に伴って流入した他国からの移住者が、紛争からの復興に貢献しているためではないかと考えられる。さらに、帰還民による「頭脳循環」が国内の技術発展につながっている可能性。

結論③

- SSA地域において一人当たりGDP（所得水準）を向上させるためには、送出国と受入国間での移民の循環がより促進されることが望ましいと言える。
- 移民が循環することで、受入国には労働力を送出国には「頭脳」をもたらす。そして、受入国と送出国の双方にプラスの影響を与え、域内全体の経済発展につながる。そのためには受入国、送出国に関わらず、各国政府による雇用創出や移民管理の徹底、産業の発達、治安の改善、情勢の安定等といった問題の解決が必要である。

参照文献

- Adepou, A. (2007). Trends in International Migration in and from Africa. In D. S. Taylor, International Migration : Prospects and Policies in a Global Market (pp. 59-76). Oxford: Oxford Press.
- Adepou, A. (2008). Migration and social policy in sub-Saharan Africa. Retrieved from [http://unrisd.org/unrisd/website/document.nsf/ab82a6805797760f80256b4f005da1ab/ac96a6e2d6c0ff9cc125751200354ddb/\\$FILE/draft_adeipoju.pdf](http://unrisd.org/unrisd/website/document.nsf/ab82a6805797760f80256b4f005da1ab/ac96a6e2d6c0ff9cc125751200354ddb/$FILE/draft_adeipoju.pdf)
- AfDB. (2009). African Economic Outlook 2009. AfDB.
- Barro, R. J., & Lee, J. (1993). Losers and Wiinners in Economic Growth. Massachusetts.
- Barro, R. J., & Sarra-i-Martin, X. (1995). Economic Growth. Cambridge: MIT Press.
- Campbell, E. K. (2009). In A. e. al., International Migration within, to and from Africa in a Globalised World.
- Castles, S., & Miller, M. (2010). The Age of Migration International Population Movements in the Modern World 4th Edition. New York: The Guilford Press.
- Collier, P., & Gunning, W. (1999). Why Has Africa Grown Slowly? The Journal of Economic Perspectives, Vol. 13, No. 3. (Summer), pp. 3-22.
- de Haas, H. (2008). Irregular Migration from West Africa to the Maghreb and the European Union: An Overview of Recent Trends. Geneva: IOM.
- Easterly, W., & Levine, R. (1997). Africa's Growth Tragedy: Policies and Ethnic Divisions. Quarterly Journal of Economics 112 (November), 1203-50.
- Galloway, M. (2008). Return Migration to Togo. Amsterdam: University of Amsterdam, the Netherlands.
- GDMD. (2013, 12 20). Global Fom on MIGRATION & DEVELOPMENT. Retrieved from Pfp Benin: <http://www.gfmd.org/en/pfp/policy-tools/migration-profiles/repository/all/item/31-benin>
- Graeme, H. (2013). New Trends in Migration. 46th Session Commission on Population and Development. New York: United Nations.
- Hugo, G. (2013). Economic and Social Impacts of International Migration – Key Trends and Implications. New York: UN DESA.
- IOM. (2009). In Pursuit of the Southern Dream: Victims of Necessity Assessment of the irregular movement of men from East Africa and the Horn to South Africa. Geneva: IOM.
- IOM. (2011). Migration in Sudan: A Country Profle 2011. Retrieved from International Organization for Migration: http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/D2ECC0D6226DF41DC1257842003973F1-Full_Report.pdf

- IOM. (2011). World Migration Report. Geneva.
- IOM. (2013, 12 20). International Organization for Migration. Retrieved from IOM Home: <http://www.iom.int/cms/home>
- Levitt, P. (1998). Social Remittances : migration driven local-level forms of cultural diffusion. *International Migration Review*, 32:4, 926-948.
- OECD, AfDB, UNDP, ECA. (2013). African Economic Outlook 2013 Structural Transformation and Natural Resources. Paris: OECD Development Centre.
- Sachs, J., & Warner, A. (1997). Sources of Slow Growth in African Economies. *JOURNAL OF AFRICAN ECONOMIES*, VOLUME 6, NUMBER 3,, PP. 335-76.
- Tati, G. (2008, 3). The immigration Issues in the Post-Apartheid South Africa: Discourses,Policies and Social Repercussions. Retrieved from Espace populations sociétés: es.revues.org/3496p
- The World Bank. (2013, 11 25). World Bank Press Release. Retrieved from The World Bank Web site: <http://www.worldbank.org/en/news/press-release/2012/11/20/developing-countries-to-receive-over-400-billion-remittances-2012-world-bank-report>
- UN DESA. (2013, 11 15). International Migration 2013: Migrants by origin and destination. Retrieved from Trends in International Migrant Stock: The 2013 Revision: <http://esa.un.org/unmigration/wallchart2013.htm>
- UN DESA. (2013, 12 25). International Migration Report 2013. Retrieved from United Nations Department of Economic and Social Affairs Population Division: http://www.un.org/en/development/desa/population/publications/pdf/migration/migrationreport2013/Full_Document_final.pdf#page=14
- UN DESA. (2013, 11 3). Trends in International Migrant Stock: The 2013 revision. Retrieved from United Nations Department of Economic and Social Affairs Population Division: <http://esa.un.org/unmigration/migrantstocks2013.htm?mtotals>
- UN DESA. (2013, 10 18). United Nations Department of Economic and Social Affairs. Retrieved from Population Division: <http://www.un.org/en/development/desa/population/theme/international-migration/index.shtml>
- UNHCR. (2013, 12 27). Country Profile. Retrieved from United Nations High Commisioner for Refugees: <http://www.unhcr.org/cgi-bin/texis/vtx/home>
- UNHCR. (2013, 12 27). Office of the United Nations High Commissioner for Refugees. Retrieved from 2014 UNHCR regional operations profile - Southern Africa: <http://www.unhcr.org/pages/49e45abb6.html>
- UNPD. (2014, 1 5). International Migrant Stock Data. Retrieved from UNPD Home: <http://migrationobservatory.ox.ac.uk/data-and-resources/data-sources-and-limitations/unpd-international-migrant-stock-data>
- World Bank. (2011, 2 2). Factbook 2011. Retrieved from The World Bank Homepage: <http://siteresources.worldbank.org/INTPROSPECTS/Resources/334934-1199807908806/Madagascar.pdf>
- 伊藤史朗. (2001). 経済成長と収束性—都道府県データによる計量分析—. 同志社大学経済学会.
- 塩路悦朗. (2001). クロスカントリー・データによる経済分析：サーベイ. 財務省財務総合研究所フィナンシャル・レビュー, 1-26.
- 外務省. (2013年12月20日). 各国・地域情勢. 参照先: 外務省ホームページ: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>
- 武内進一. (2006). 第4章 紛争が強いる人口移動と人間の安全保障—アフリカ大湖地域の事例から—. 著: 望月 克哉, 人間の安全保障の射程 —アフリカにおける課題— (ページ: 151-192). 東京: アジア経済研究所.
- 福西隆弘, 山形辰史. (2001). 第2章 アフリカ諸国の経済成長. 著: 平野克己, アフリカ経済学宣言 (ページ: pp.25-65). 東京: JETROアジア経済研究所.